

チャレンジ・フォーラム 事例発表
「地域の魅力を結集させた『吉和おさんぼギャラリー』の企画・開催」
発表自治体：廿日市市

【発表者】先矢和重さん（廿日市市吉和支所地域づくりループ）、研谷浩樹さん（廿日市市吉和支所地域づくりグループ）、吉富有美さん（廿日市市地域支援員）、飯尾公一さん（廿日市市経営政策課）、伊東克裕さん（廿日市市経営政策課）、中村満さん（廿日市市地域政策課）、光井栄造さん（廿日市市協働推進課）、倉田忍さん（廿日市市協働推進課）《順不同》

○司会：廿日市市からの事例発表でございます。「地域の魅力を結集させた『吉和おさんぼギャラリー』の企画・開催」につきまして、吉和支所地域づくりグループの先矢さん、研谷さん、地域支援員の吉富さん、経営政策課の飯尾さん、伊東さん、地域政策課の中村さん、協働推進課の光井さん、倉田さんから発表していただきます。それでは、お願いいたします。

○先矢さん：スイーツの町、廿日市から来た先矢と申します。すみません、漢字が間違われる「おいしい」町、廿日市です。皆さん、行政の皆さんがたくさんおられると思いますので、今日は台風のことでいろいろお疲れと思いますが、頑張りますので応援してください。（拍手）

廿日市市では、総務省の地域おこし協力隊、集落支援員の制度を活用した地域支援員制度というのを吉和地域に導入しております。吉和地域というのは高齢化率が48%で、737人のところなんですけれども、こういったところから中山間地域を、少しでも元気になれということで、地域支援員という制度を活用しまして、今からその話について地域支援員の吉富からお話ししますので、よろしく申し上げます。

○吉富さん：それでは、事例の「吉和おさんぼギャラリー」という活動について発表させていただきます。

「おさんぼギャラリー」というのは、昨年10月の土曜日、日曜日の2日間に開催しましたイベントでして、どういうものかといいますと、地域の中で、例えば陶芸だったり、パッチワークだったり、ものづくりをされる方を中心に、自宅の一部を開放していただきまして、そこに作品を並べて、それをマップに落とし込んで、お客さんにマップを見ながら自由に回っていただくというイベントです。

これを始めたきっかけは、広島市内のある団地から吉和に移住してきた方がいらっちゃって、その方に、団地でこういった自宅開放のイベントをしているよという話を聞いたのがきっかけで、これは団地ではなくて、今度は山の中ならではの自宅開放のイベントがで

きるということで、そういった手づくりの作品のほかにも、美しい風景だったり、昔ながらのものというものもギャラリーの作品として、吉和の魅力を展示するというコンセプトで行いました。

これが、昨年の当日に実際に使ったマップです。最終的に28軒のお宅が自宅を開放してくれました。このイベントのイメージが広がったきっかけというのが、地域で感じていた魅力というのがそのまま活かされると同時に、課題と言われる部分にも、解決につながるような取組ができると思ったことです。

まず、魅力のほうなんですけれども、吉和地域は本当にものづくりが得意な方が多い。これは、吉和地域、実は日本最南端の豪雪地帯に指定されておりまして、冬、雪で閉ざされたときに家でできるようなこととして、手で何かを作るといえることが得意な方が多いという部分があります。

それから、住民の方が誰かお客さんが来たときにおもてなしをするのがとても上手だとか、歩いて見える自然の風景というのは、ある一ヶ所で行うイベントではなかなか伝わりにくい。自宅を回る形だからこそ伝えられるものではないかなと思いました。

それから、吉和地域は集落と集落の間がすごく近くて移動しやすい地形であるとか、廿日市市内や広島市内から車で1時間で来られるというアクセスも、このイベントは開催しやすいのではないかなと思いました。そのほか、高冷地で涼しくて別荘が多いことだとか、観光施設があることなども、そちらと連携して、また違ったいろいろなものが提供できるなという部分で、地域にある魅力をそのまま提示できるのではないかなと思いました。

一方、課題は、いろいろな地域でよくあることなのかなと思うんですけれども、地域で何か会議、イベントとなると、どうしても同じ人に頼ってしまうという部分がやはりありました。今回この「おさんぽギャラリー」を企画する実行委員会を20代、30代の女性を中心に組んだんですけれども、そういったことで今まで地域づくりに参画していなかった世代をそういったことに関わってってもらおうということができる。それから出展者の方が住民一人一人になるんですけれども、自分たちでも作っていくという、主体的に関わることができる。

それから、地域にたくさんあるお店だとか個人個人がそれぞれ頑張っているけども、なかなか協力して一緒に何かをやるのは難しい状況があったんですけれども、今回、それぞれ個々ができる形で何かをやりながら、地域としては一つ大きなものをプロデュースできるのかなと思いました。それから小さな地域ですが、意外と普段、接点のない住民というのは多くいらっちゃって、そういった方たちの交流にもつながるといえるということで、今回、開催を企画しました。

運営の工夫はいろいろあるんですけれども、大きいところで言うと地域のいろいろな施設や店舗なんかに、それぞれができる形で関わってもらいました。例えば、地域に美術館が一つあるんですけれども、その美術館には、今回初めて出展をされる方々に向けて「展示のこつ講座」を開いてもらったり、温泉施設には来場者の方に温泉の割引サービスをし

でもらったりというような、それぞれの特徴を活かす形で協力をしていただく。それによって地域をあげてのイベントにしていくということになりました。

もう一つは自主財源で開催できたということが大きかったです。今回、例えばマップを作ったり、ポスターを作ったりとお金がかかる部分があるんですけども、参加者が本当に数千円、1,000円、2,000円参加費として出し合うというところと、地域の企業の協賛というところで大部分をまかなって、また初年度開催ということで、ちょっといる部分に関しては廿日市市の職員が中心となって吉和の特産品を、廿日市内の沿岸部のまちのところで売ってそれを資金にするとか、そういった形で自主財源で開催する。それは、今後ずっと継続を続けていく上ではすごく大きかったかなと思っています。

今から当日の様子を少し、写真でご紹介したいと思うのですが、これは、いろいろな木工だったり、写真なんかの展示の様子です。一番右下の写真、パッチワークの作品なんですけど、これは「91歳のおばあちゃんが作る」というタイトルで参加していただいて、残念ながら当日の直前に体調を悪くされて、当日は展示だけで終わってしまったということもあるんですけども、高齢化がある地域でこういうハブニングはあったんですけども、当日に向けてはりきって作ってもらっていました。

これは、「縁側からの風景」という展示です。この家のおばあちゃんが、またいい味を出して、お客さんを楽しく迎えてくれます。こちらは、おじいさんが山へ芝刈りのような、ああいう古い道具だとか昔ながらの薪を積み上げているような様子、そういった生活の様子も楽しんでもらう。それから、別荘地のログハウスもたくさん開放していただけたので、そういった山の中のライフスタイルというか、そういったものも展示できたのかなと思います。

体験プログラムもたくさんありました。そば打ち、木工、生け花とか、変わったところではお寺で写経とか、いも掘り体験とか、そういった田舎ならではのプログラムが幾つか並びました。

各出展会場の目印にこうした背番号の入った赤いTシャツを使ったんですけども、これの掲示の仕方を出展者さん各自に自由に考えていただきました。そうすると、いろいろな個性や工夫が表れて、このTシャツ自体を見て歩くのも楽しいものになったんじゃないかなと思います。

こちらから特にお願いしなかったんですけども、皆さん、やっぱりお客さんを迎えるとなるとおもてなししようということで、いろいろな自然の物を使ったおもてなしの心というのが随所に表れていたかなと思います。こういった山のおもてなしの部分がいい形で出たんじゃないかなと思っています。

こちらは実行委員会本部の様子です。当日、マップを配ったりご案内したり、新米だとか特産品を販売するところを設けました。

2日間でマスコミに取り上げてもらったこともありまして、2,000人が訪れるということで、非常にどこの出展会場も忙しく、2日間を終えることができました。この効果

なんですけれども、まず地域以外の方に対しては、吉和の魅力発信につながったと。お客様からいただいたアンケートだと、「田舎の原風景が見られました」とか、「皆さん、本当に親切でおもてなしの心が豊かですね」などと、こちらがこういうふうなことを考えてほしいなということが綴られていたことはよかったですと思います。それから住民の方、来場者との交流というのも深まりました。

地域内に関しては、すごく大きかったのは実行委員のメンバーがすごくいろいろなアイデアや次の行動などを起こすようになって、意識がすごく変わったということと、出展者の方を中心に来年はこういうことをしようというような、新しい動きが出てきました。

今年は今週末の土曜日、日曜日がこの「おさんぽギャラリー」の第2回目になります。今回は新規出展を含めた31軒が開放して、2012年をきっかけに、今度は地域の違うグループがこの2013年に向けてウォーキングマップを作ろうということで、今出来上がったばかりの、昨日出来上がったこういうウォーキングマップを配布したりとか、実行委員のメンバーが「おさんぽギャラリー」の婚活をやろうということで、新しい企画が出てきたりしています。こういった形でまた楽しんでいただけたらと思うので、ぜひお越しください。ありがとうございました。（拍手）